

1. 到達目標

A) 一般目標

診療方針の決定に際して病理診断が果たす役割を理解し、患者本人や家族、臨床医が病理診断に求める内容を病理医にどのように伝え、病理医がどのように応えているかを観察して、協調的なコミュニケーションを行う姿勢を身に着ける。

B) 行動目標

(1) 知識

1. 病理組織・細胞診検体の適切な固定法について説明できる。
2. 病理組織・細胞診の作製過程と診断の進捗状況について把握する。
3. 固定標本提出から診断送信までの Turn Around Time が 7～10 日となっている理由を説明できる。
4. 術中病理診断(ゲフリール)の利点と欠点を説明できる。
5. 細胞診のスクリーニングにおける細胞検査士と病理専門医の役割と、スクリーニングについて説明できる。

(2) 技能

1. 病理診断・細胞診断に必要な依頼箋記載内容を説明できる。
2. 検体の肉眼所見・内視鏡所見などのスケッチができる。
3. の高い疾患の典型例について、肉眼所見による疾患の推定や切り出し部位の選定ができる。
4. 例・生検例の CPC のプレゼンテーションを作製できる。

(3) 態度

1. 病理解剖に積極的に参加し、CPC を聴講できる。
2. 病理診断を患者に説明する前に疑問点を洗い出し、ディスカッション顕微鏡で病理医に相談できる。
3. 臨床検査技師との円滑な協力関係を持てる。

2. 方略(On the job training(OJT))

- (1) 研修開始時に常勤病理医と面談し、研修目標の設定を行う。
- (2) 手術症例の切り出しを見学し、典型例については指導医・上級医のもと自ら切り出しを行う。
- (3) 組織診の診断原案を作成し、病理専門医の指導とサインアウトを受け
- (4) 症例検討会(カンファレンス):CPC clinical pathological conference 偶数月第 2 火曜日
(具体的な日付は回覧が回ります)

3. 評価

- (1) 研修医は、EPOC2 の研修医評価表で、臨床研修到達目標項目の自己評価による研修達成度評価を行い、ローテート終了時に自己評価記載を完了する。指導医は、同評価表の研修医自己評価を確認し、当該ローテート研修の指導医評価記載を完了する。指導医による評価結果は EPOC2 上でフィードバックされる。
- (2) 臨床研修指導医は、EPOC2 上で診療・手技・患者マネジメントについて適時評価を行う。
- (3) 臨床研修指導医または上級医は、本カリキュラムの行動目標のすべてに対する観察を行い、ローテート面談を適宜実施し、形成的評価をフィードバック面談シートに記録する。ローテート終了時の面談では、適宜看護師などの指導者も入り、総合的評価のフィードバックを行い、フィードバック面談シートに記録する。
- (4) 臨床研修指導医は、研修医が作成した病歴要約により、経験すべき症候、疾病、病態に関する理解度について WPOC2 上で形成的評価を行う。
- (5) 上記評価の上、次のローテーションで何を学ぶべきかなど、目標達成の方向性を見出せるように省察の時間を持ち、話し合いを行う週間スケジュール

4. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	切り出し 病理診断	切り出し	切り出し 病理診断	病理診断 (代務医の診断見学可)	切り出し 病理診断
午後	病理診断	内科会・CPC 参加	病理診断	病理診断	病理診断

術中迅速病理・病理解剖は臨床からオーダーがあった時に行います